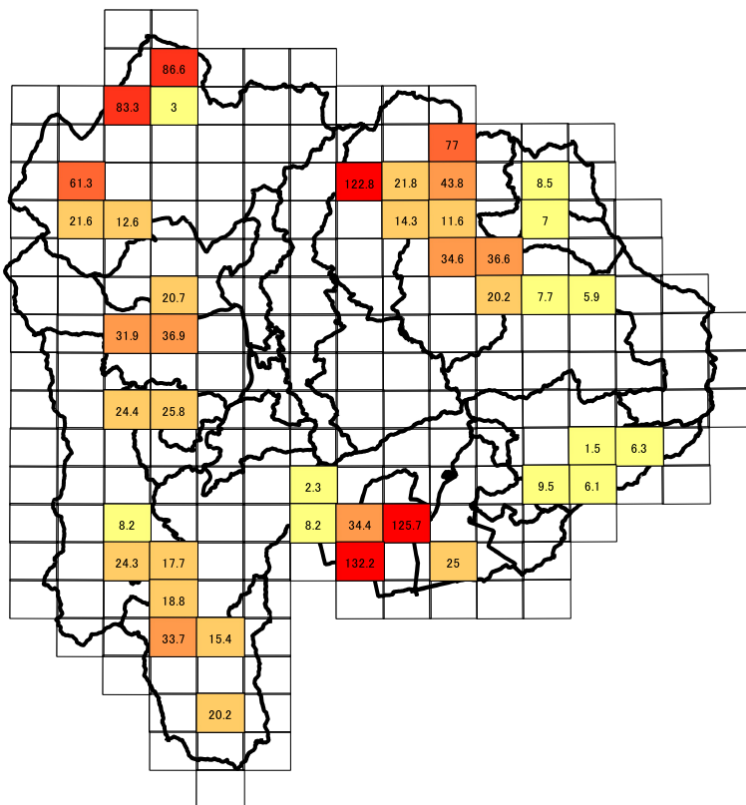


結果の概要

- 2011年11月に、県内約40か所において糞塊法と区画法によるニホンジカ密度調査を行った。
- 糞塊密度は八ヶ岳周辺、大弛峠周辺、富士山麓周辺で高かった(下図)。区画法によるニホンジカ目撃密度は八ヶ岳周辺、大弛峠周辺、身延周辺で高かった。
- 6年前の糞塊密度の値と比較すると、ほとんどのメッシュで糞塊密度は増加しており、山梨県においてニホンジカは減少させるに至っていないと考えられた。



2011年11月の糞塊密度

赤い色のところほど糞塊密度が高いことを示す。値は糞塊密度(糞塊数/km²)。

本報告書に関する連絡先：
山梨県森林総合研究所 飯島勇人
TEL: 0556-22-8001(代)

山梨県のニホンジカ生息実態調査結果

本資料は、2011年度に「住民生活に光を注ぐ交付金」によって実施した「ニホンジカ生息実態把握調査業務」の結果についてまとめたものです。

1 目的

近年、ニホンジカ (*Cervus nippon*) の個体数の増加が指摘され、その適切な管理が課題となっている。ニホンジカ管理においては、個体数管理（ニホンジカの数の制御）、生息地管理（ニホンジカが利用可能な餌資源を減らすこと）、被害管理（ニホンジカによる摂食を効率的に防ぐこと）を一体となって進めることの重要性が指摘されている（河合・林 2009）。このうち個体数管理については、山梨県ではみどり自然課が 2003 年からニホンジカの個体群動態を把握するためのモニタリング調査を実施してきた。しかし、これらのモニタリング調査では複数の密度指標が調査されているものの、調査点数の増加、特に区画法の実施点数を増加することが課題であった。そこで本事業は、これまでみどり自然課によって収集されてきたモニタリングデータに加えて、区画法調査を多点で実施し、山梨県におけるニホンジカの生息実態をより正確に把握することを目的とした。

2 調査方法

- 調査地：山梨県内の 40 か所。本調査は狩猟メッシュ（環境省が生物調査の単位として全国を網羅するように設定。1 メッシュは約 $4.6 \times 5.5\text{km}$ であり、山梨県は全体で 216 メッシュ）単位で実施した。なお、調査する狩猟メッシュは、過去にモニタリングが行われてきたメッシュはすべて網羅し、それらに新規のメッシュを加える形で設定した。
- 調査期間：2011 年 11 月。（株）野生動物保護管理事務所に委託して実施。
- 糞塊法：調査メッシュ内で約 5km の踏査ルートを設定し、1 名の調査員が踏査ルートを歩いて発見した糞塊の数を記録した。糞塊とは、1 回の排泄由来と考えられる糞粒が 10 粒以上の物と定義した。
- 区画法：調査メッシュ内で約 1km^2 の調査範囲を設定し、10 名の調査員が 2 時間で調査範囲内をくまなく踏査した。目撃されたニホンジカについては常に無線で連絡を取り合うことで、重複カウントを避けた。

3 結果と考察

3.1 糞塊密度

本調査による糞塊密度と、参考値として2005年11月に調査された糞塊密度を図1(次ページ)に示した。本調査の糞塊密度は大弛峠周辺、八ヶ岳周辺、富士山周辺で特に高い傾向が認められた。また、2005年度と比較して、ほとんどの箇所では糞塊密度が増加していた。山梨県におけるニホンジカの捕獲数は2005年度は1283頭だったのが2010年度は6384頭と大きく増加しているが、ニホンジカを減少させるには至っていないと考えられる。

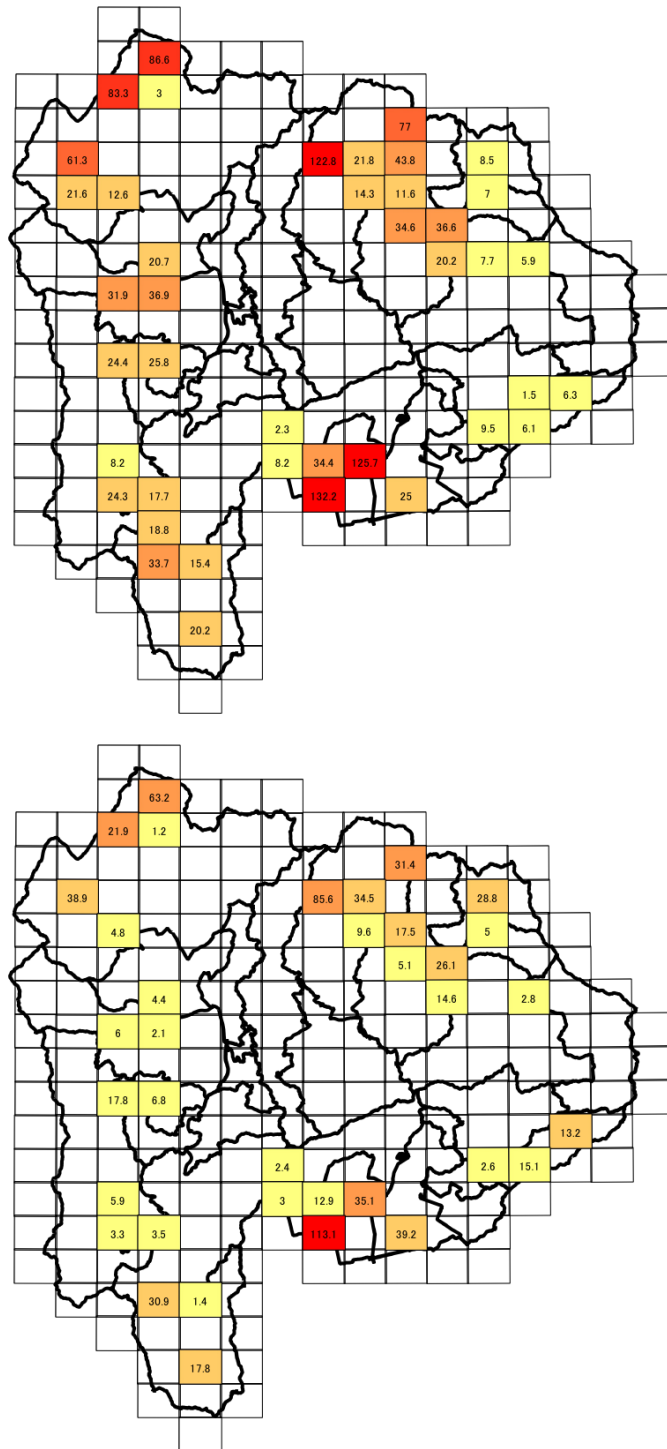


図1 2011年(上段)と2005年(下段)11月の糞塊密度

色が赤い所ほど糞塊密度が高いことを示す。値は糞塊密度(糞塊数/km)。

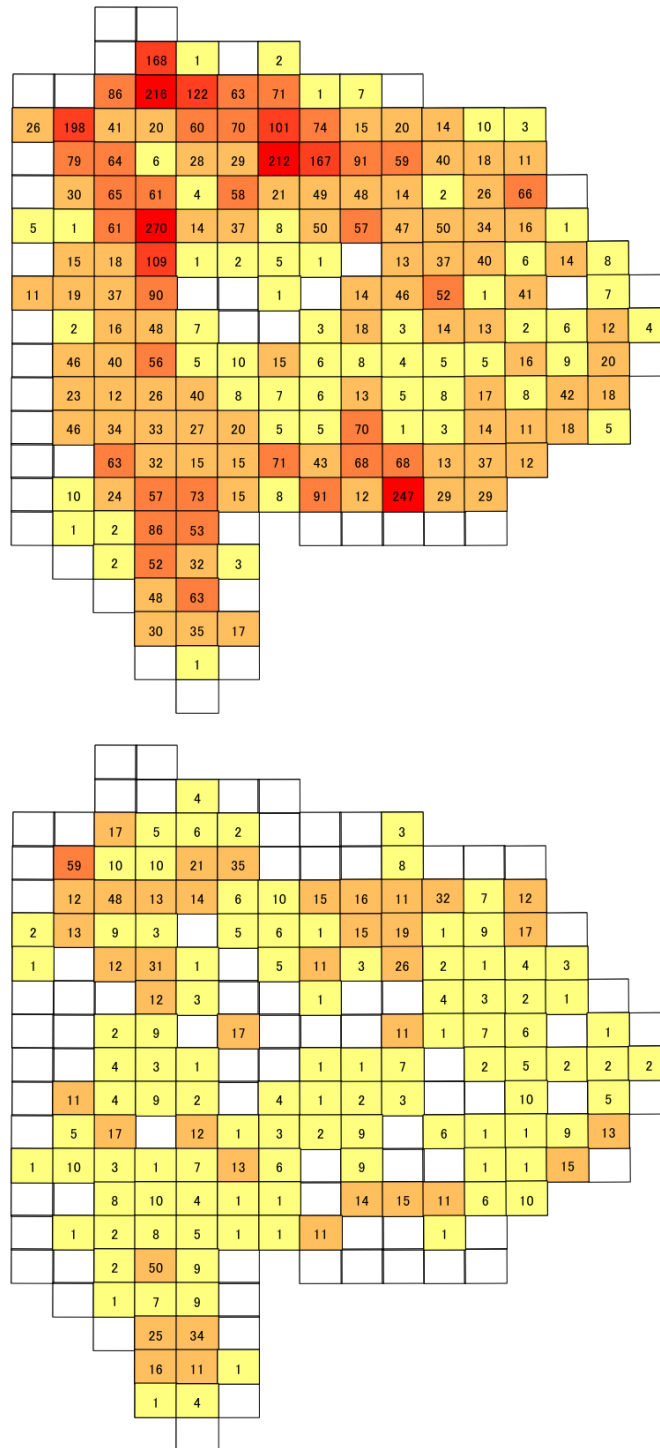


図2 (参考) 2010年度(上段)と2005年度(下段)のニホンジカ捕獲数

色が赤い所ほどニホンジカの捕獲数が多いことを示す。捕獲数は狩猟、有害、管理捕獲の合算値である。なお、捕獲場所が不明な捕獲数については図示できないため、この図の値を足し合わせても全県の総捕獲数とは対応しない。

3.2 区画法

本調査での区画法によるニホンジカを目撃密度を図3に示した。目撃密度は八ヶ岳周辺、大弛峠周辺、身延周辺で高かった。糞塊密度による相対的なニホンジカ密度の違いと傾向が一致している箇所と一致していない箇所があったが、これは調査方法の違いによる可能性が考えられる。糞塊法は落ちていた糞塊の数を数えるものであり、秋季のニホンジカの累積的な密度を反映していると考えられる。一方、区画法は調査を行った時点でその場所にニホンジカがどれだけいたかという瞬時的な値であり、調査の時間、天候、調査日前の捕獲の有無などの影響を受けると考えられる。

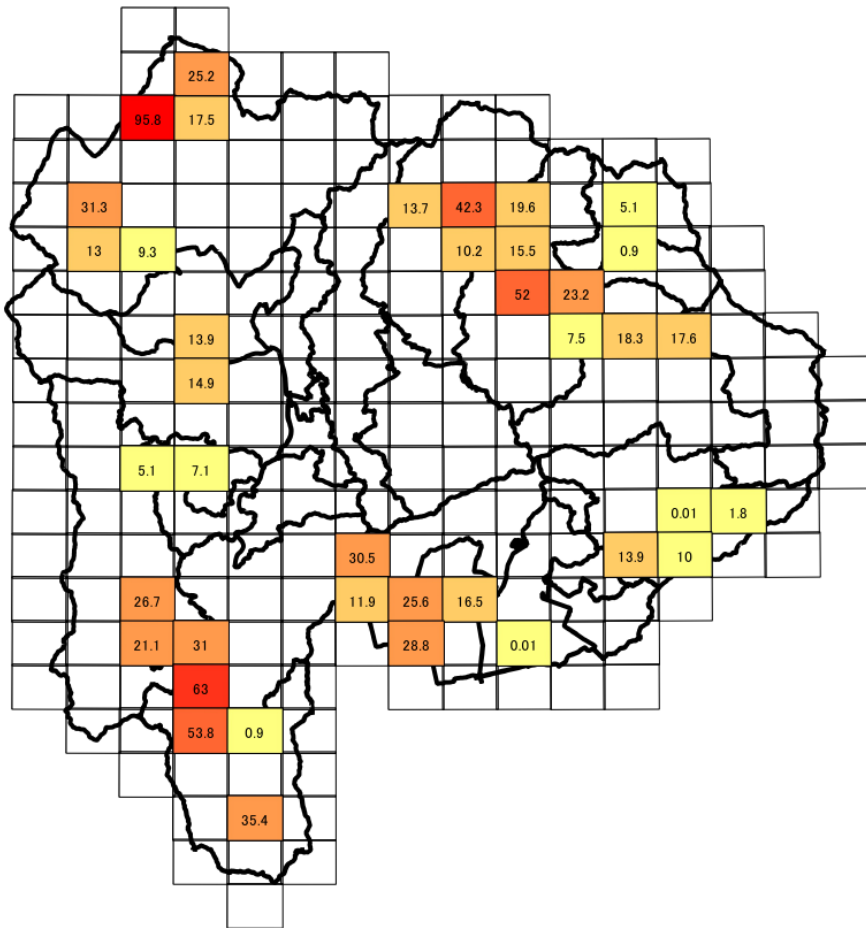


図3 2011年11月の区画法によるニホンジカ目撃密度

色が赤い所ほどニホンジカが多く目撃されたことを示す。値は目撃密度(頭数/km²)。

4 まとめと今後の課題

本事業から明らかになった点と今後の課題を、以下に記す。

- 糞塊法と区画法による調査結果を総合すると、八ヶ岳周辺、大弛峠周辺、富士山周辺は県内でも特にニホンジカ密度が高いと考えられる。
- 2005年と比べ、糞塊密度はほとんどのメッシュで増加しており、ニホンジカは山梨県内において増加していると考えられる。
- 糞塊法と区画法の結果は必ずしも一致しておらず、継続的な調査によりこれらの密度指標間の関係と推移を調査する必要がある。